

2023年度 学校自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「温かい人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切にし社会に貢献出来る人材の育成を目指す。	今年度の 重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 規律ある生活態度の育成・徹底 3. 望ましい人間関係の構築
-------------------	--	--------------	---

評価基準  
 A：ほぼ達成 (90%程度) B：概ね達成 (70%程度) C：まだ不十分 (50%程度) D：方策の見直し (30%以下)

年度当初				評価結果(10月)				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	○個々に応じた学習意欲の喚起	○生徒一人一人が集中しやすい授業環境が大方作れている。 ○88%の生徒がその学年の単位を全て取得している。 ○単位認定が心配な生徒は、放課後や長期休暇に補習を実施。また、追試課題も自宅ではなく放課後に取り組ませている。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開を図れ、必要な単位修得ができる。	○単位認定が心配な生徒は、放課後や長期休暇に補習を実施。また、追試課題も自宅ではなく放課後に取り組ませる。 ○再履修科目がある生徒へは、担任と教科担当が密に連携をとり、不足ない対応をしていく。	○前期試験では、合格者が多い中、追試・課題となる意識の低い生徒がいる。		○追試が不合格の生徒には、面談をした上で課題を渡し、意識の改善を促す。		○90%の生徒がその学年の単位を全て取得した。後期試験より追試課題を廃止し、本試験と追試試験のみにすることで、生徒の意識が高まった。	○追試課題を廃止し、本試験と追試試験のみの対応を継続していく。
	○授業の質の更なる向上	○生徒の習熟度や単位認定状況を職員間で共有することができている。 ○全員ではないが職員が資格に挑戦し合格できている。また、外部の研修で得た知識を職員間で共有している。	○英数のクラスを細分化し、生徒の授業理解を深める。 ○生徒の情報を共有し、授業の質を向上させる。 ○職員の自己研鑽が日々行われている。	○英語の習熟度別クラスを1クラス増やし、生徒の習熟度や単位認定状況を職員間で共有する。 ○職員各自の自己研鑽を継続し、様々な資格にチャレンジする。	○英語・数学は年度当初にクラス分けテストを実施。英語は4クラス、数学は5クラスの習熟度別の授業を展開している。 ○授業担当と学年担任が生徒の習熟度及び学習状況を共有している。 ○研修に参加した職員がその学びを共有する場を設けている。	B	○習熟度別クラス内の低位生への指導を後期試験に向けて強化する。  ○授業担当と学年担任が気になる生徒の学習状況を継続して共有し、単位修得につなげていく。	B	○英語・数学は他の教科と比べて学力の定着度が顕著に低い。 ○授業担当と学年担任とのコミュニケーションが取れていた。 ○資格試験にチャレンジし、合格した職員がいた。また、外部研修に参加し、その内容を職員間で共有した。	○習熟度別クラスの振り分け、検定受検も視野に入れた授業内容の再検討。  ○資格試験、スポーツの大会など職員自身がチャレンジ精神を持ち、自己研鑽を継続する。
	○資格取得率の向上	○漢字検定(6月)3級以下合格率61%、準2級2名合格。パソコン検定(7月)パソコン検定3級以下合格率62%。準2級8名、2級1名。 ○漢字検定(10月)3級以下合格率46%、準2級1名、2級1名合格。パソコン検定(12月)3級以下合格率41%、準2級4名。 ○年間合格率(者)：漢字検定3級以下54%。準2級3名、2級1名。パソコン検定3級以下52%、準2級12名、2級1名。任意受検の検定受検者が増えている。 英語検定2級1/1、準2級0/1、3級3/3、4級1/1。 数学検定準2級0/1。	○漢字検定3級以下の合格率60%以上、パソコン検定3級以下の合格率が60%以上、かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。 ○英語検定、数学検定等任意受検検定の受検者数を増やす。	○3級以下の合格率を全部の回で目標達成をめざす。そのために夏休みを活用した学習のやり方を検討する。 ○年間の検定スケジュールを生徒配布し、見通しを立てさせる。 ○月毎の予定だけでなく、年間の模試予定を掲示し、意識を高めさせる。	○漢字検定(6月)3級以下合格率59%。 パソコン検定(7月)3級以下合格率65%。準2級2名、2級1名合格。 ○英語検定受検者6名。数学検定受検者1名。		○一部生徒は検定結果を面談して返却。	B	○漢字検定3級以下合格率(年間)50%、準2級3名合格。パソコン検定3級以下合格率53%、準2級9名、2級3名合格。 ○英語検定2級0/1、準2級1/2、3級1/3。 数学検定2級0/1。	○授業の中で英語検定・数学検定に触れる機会を増やし、検定に意識を向けさせる。

年度当初				評価結果（10月）				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールへの遵守、公共の場でのマナー向上	○服装、頭髪など、服装検査前から意識できる生徒が増えている。 ○出席率の低い生徒がいる。	○社会で通用する身だしなみを身に付けさせる。 ○社会で通用する生活習慣を身につけるため、全校の出席率を70%以上にする。	○毎月の服装検査だけでなく、毎朝のホームルーム、及び毎週の全校集会でも、整った服装を確認する。 ○出席率の低い生徒に対して、個別面談や放課後対応など、個々に応じた対応をしていく。	○細かい点で注意される生徒はいるが、大半の生徒は意識高く過ごしている。服装検査の日以外での注意がまだある。 ○出席率の低い生徒は随時三者懇談を行い、対策を話し合った。その後少しずつ出席が増えている。	B	○服装検査以外の日の声かけや、ホームルーム・朝会での確認を増やす。 ○欠席がちな生徒への声かけを継続する。また、随時三者懇談を行い対策を話し合う。	B	○服装で注意される生徒は少なくなった。  ○全体の出席率75%。欠席の多い生徒も登校に前向きな様子ではある。	○服装検査以外の日も意識して過ごせるよう日々の声かけを続ける。  ○出席率の低い生徒は早めに保護者を交えて対策を考えていく。
	○積極的な挨拶の定着	○毎朝玄関先で教員が声かけをしている。 ○帰りは自分から元気な声での挨拶が聞こえる。朝はこちらの声かけに応じて挨拶ができています。	○挨拶をする習慣を身につけさせる。	○職員全員が名前を呼んでの挨拶を継続していく。	○日によって教員の数は異なるが、継続して名前を呼んでの挨拶が来ている。		○継続して挨拶していく。		○職員が1年を通して玄関での挨拶を継続。それに対して挨拶を返すことはほぼ全員出来る。自発的に挨拶をする生徒も増えている。	○継続して職員が玄関先で名前を呼んで挨拶をしていく。 ○来校者に対しても挨拶できるようにする。
	○清掃活動の習慣化、学習環境の整備が整う	○学年で週交代の清掃をしている。学年によって丁寧さのバラつきはあるが、年々スムーズに動けるようになっていく。	○自らが率先し毎日清掃活動、身の回りの整理整頓を身につけさせる。	○学年での週交代の清掃を継続する。 ○帰りのホームルームで、身のまわりの整理整頓の声かけをしていく。	○どの学年も時間を守って掃除が出来ているが、丁寧さに欠けることがある。 ○学年によってばらつきがある。		○声かけを増やし、生徒の意識を高める。		○時間を意識して清掃をすることが出来るが、丁寧さにはまだばらつきがある。	○教室の整理整頓の基準を明確にし、帰りのホームルームで徹底していく。

年度当初					評価結果（10月）			最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り	○アンケート回収率、生徒・保護者とも100%。保護者満足度96%、生徒満足度94%。  ○「ソフトなタペ」の保護者参加者平均13名。	○保護者・生徒アンケートで回収率100%、満足度90%以上。  ○「ソフトなタペ」の参加者平均15人。	○年2回の生徒・保護者アンケートを継続して実施（9月・1月：3年・2月）  ○「ソフトなタペ」の参加者を増加させるため、内容を検討する。	○アンケートの回収率、生徒・保護者とも100%。「入学させてよかった」保護者98.6%、「入学してよかった」生徒95.9%。  ○「ソフトなタペ」毎月の平均参加者14名。（4～9月）	B	○全校朝会で生徒への締切の意識、職員朝会で職員への締切の意識付けの継続していく。  ○近況報告だけでなく、ワークショップ的な内容も増やして、新規参加者を増やしていく。	A	○アンケートの回収率、生徒・保護者とも年間100%。「入学させてよかった」保護者前期98.6%、後期97.2%。「入学してよかった」生徒前期95.9%、後期98.6%。  ○「ソフトなタペ」毎月の平均参加者12名。（年間）	○年2回のアンケートを継続実施。 ○アンケート回収率100%を継続する。  ○ソフトなタペの平均参加者数の目標を全体の20%とする。そのためにも、保護者アンケートを実施し保護者の要望を確認していく。
	○クラスでの仲間作り	○6月に3年生、11月に2年生、3月に1年生が企画を計画・実行して全て成功させることができ、クラスの仲が深まった。 ○勉強室利用0人が年間通して継続できた。	○誰もが居心地のよいクラスを作る。	○生徒企画イベントを年間で計画を立て、個々に役割を持たせて実行する。 1学期（6月）3年生 2学期（9月）2年生 3学期（3月）1年生	○3年生の生徒企画は感染症対策のため中止。2年生は11月に実施予定。		○2年生企画に向けてクラスの仲間意識、次のリーダーの意識を高めさせる。		○2年生企画は11月に実施（リング狩り・映画祭）。1年生企画は2月に実施（運動会）。	○学年企画を年間予定として計画し、事前準備を丁寧になせ、達成感を持たせていく。

年度当初				評価結果（10月）				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
キャリア教育の充実・早期進路決定	○幅広い視野・職業観の育成	○3年生進路決定24/27名（89%）。 ○3年生は86%の生徒が卒業後の進路希望が定まっている。	○幅広い選択肢の中から進路目標を見つけさせ、進路実現のため日々努力させる。	○学校見学、出前授業、職業人講話の計画を立てる。 ○見通しを持って進路について考えさせる。 1年：進学or就職 2年：具体的な進学先、職種 3年：オープンキャンパス、職場見学等の参加	○全校として7月に卒業生の職業人講話を実施。11月に大学見学を予定。また、3年生は、11月に「巣立ち教室」として外部講師を招いた授業を予定している。 ○3年生進路決定者6/23名。		○巣立ち教室（3年生・11月）、大学見学（全校・11月）、職業人講話（全校・2月）を実施し、視野を広げさせる。		○修学旅行先に姫路大学を加え大学の雰囲気や授業内容など知る機会を作った。 ○校外進路学習として、自衛隊見学、鳥取県進学フェアへの全員参加を促した。 ○職業人講話として、卒業生の格闘家、住職等様々な職業を知り、視野を広げさせた。	○職場見学や職業人講話の開催を定期的に行う。
	○進路実現に向けての具体的・主体的な行動	○進学希望対象者の模試で、各学年毎年受験者がいる。	○自らの進路について真剣に考えさせることで、具体的な行動を起こさせる。	○希望する進路実現に向けオープンキャンパスや事業所説明会など積極的な参加を呼びかける。 ○模試の実施だけでなく、模試後に情報共有の会を開き、模試再チャレンジも実施する。	○自己実現に向けて3年生22/23名がオープンキャンパスまたは事業所見学に参加。  ○模試の情報共有が出来ていない。	B	○具体的に動けていない3年生は生徒を絞って担任だけでなく学校全体で個別面談等を行い、具体性を持たせていく。 ○模試が帰ってきた際に、共有する時間を取る。	B	○3年生進路決定者16/20名（80%）。 ○模試の職員間の情報共有が十分にできていない。	○キャリア教育の時間を増やし、3年生の早期意思決定を目指す。 ○模試が返却された際に職員間で共有する時間を確保する。
		○年間のアルバイト経験者は47%。 ○ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。 ○ボランティア募集の情報提供をその都度行っている。昨年度は福祉関係のボランティアは直前の中止が多かった。	○自ら率先してボランティア活動や地域貢献する姿勢を身につけさせる。	○社会経験・自己実現に向けたアルバイトを促す。 ○アルバイトを躊躇している生徒を中心に、ボランティアへの積極的な参加を促す。 ○ボランティア参加の生徒を視覚化し、学期末のボランティア表彰を継続して実施する。	○アルバイト経験者40%（10月末時点）  ○ボランティアへの参加者11名（延べ数20名）。 ○ボランティア参加の掲示スペースを作成し、生徒へ周知している。	○アルバイト経験者を増やすよう学期末の懇談でも促していく。		○アルバイト経験者52%。 ○ボランティアへの参加者30人。 ○多くの生徒がアルバイトやボランティアに積極的に参加できた。		○アルバイト・ボランティア活動への積極的な参加を促す。 ○ボランティア参加の掲示スペースの内容を全校集会等で定期的に発信し、生徒へ周知していく。